

とちぎの食と農業アクションプロジェクト推進方針 概要版

趣旨

将来にわたって本県の食と農業の持続性を確保していくため、地産地消や食育の取組を一層充実・強化し、生産・流通・加工・消費に携わる者がお互いを理解し応援し合う、県民参加型運動「とちぎの食と農業アクションプロジェクト」を、官民連携により推進する。

現状

- 担い手の急減・資材価格の高騰・気候変動に伴う農業被害の多発などによる食料安定供給への懸念
- 食品価格の高騰等による消費者行動の変化
- 地産地消や食育の浸透による食と農業への応援機運の高まり
- 食料・農業・農村基本法の改正



課題

- 食や農業を取り巻く情勢・食料安定供給に関する知識〔消費側〕理解の不足 〔供給側〕情報発信の不足
- 応援行動へのハードルの存在 〔易〕買い物、イベント参加 〔難〕農業ボランティア、情報発信
- 生産・流通・加工・消費に携わる者同士の相互理解の不足

対応の方向性

これまでの地産地消や食育の取組を基本とし、食と農業への更なる理解促進を図るとともに、県民一人ひとりの、食と農業を応援する『もう一步踏み出す行動』を促進

目指す姿

県産農産物に関わる生産・流通・加工・消費のそれぞれの立場の人たちが、お互いのファンになって感謝を伝え合い、自らがSNS等で食と農業に関する情報を発信し、お互いを応援し合うことにより、みんなで「とちぎの食と農業」を盛り上げ、誇りを持って未来へ繋げていく

推進方法

【重点ターゲット】高校生・大学生(10～20代)、子育て世代(20～40代)

【推進体制】関係機関・団体、市町等で構成する推進協議会が中心となってプロジェクトを推進

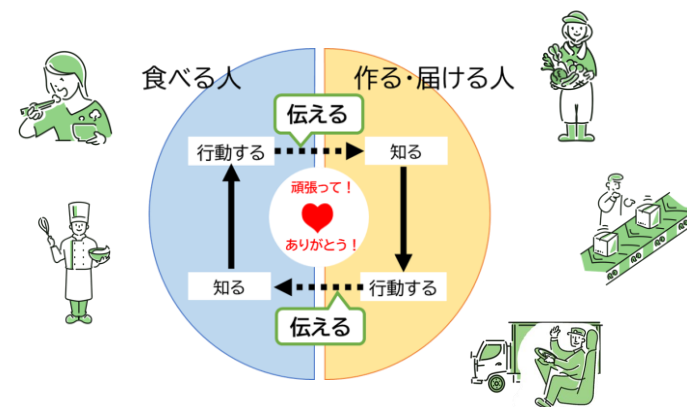
推進ステップ

(1)知ってもらう、(2)行動してもらう、(3)発信してもらうの3つのステップを設定。ステップアップにより、食や農業に対して「関心の低い人が、食や農業の魅力や大切さに気づき、自らもその価値を発信する人になること」、「既に関心の高い人が、自発的な情報発信に取り組むなど、一層深く食や農業に関わる人になること」を目指す。

協議会の方策

協議会は、プロジェクトの推進ステップに沿った県民の理解促進や、「買い物や食事等で県産農産物を積極的に選択する」、「家族で農業体験に参加する」、「食や農業への思いをSNSで発信する」などの行動につながる環境づくりに取り組み、県民自らが食と農業を応援する『もう一步踏み出す行動』をとっていく機運醸成を図る。

【推進期間】令和7年度～令和12年度



とちぎの食と農業アクションプロジェクトの発展イメージと具体的な応援行動

